



アポビッテ *ApoBitte!*

コミュニティファーマシーの創造を支援する情報誌

Vol. **2** 2016

特集 第1回 コミュニティファーマシーワークショップ報告号





イムホテプが考案したジェセル王の階段ピラミッド。マスタバ墳を積み上げ、最終的に6段の階段ピラミッドに落ち着いた。(エジプト・サッカラ)

世界最古の医学書「エドウィン・スミス・パピルス」の著者 賢人イムホテプとは何者か？



西洋における医療の歴史の起源は、エジプト古王国時代（紀元前27-22世紀）にまで遡る。古代神官文字によってその時代の病気やその治療法、処方録が詳細に記録されている「医療パピルス」は8つ、そのなかの一つであり、世界最古の医学書である「エドウィン・スミス・パピルス」は紀元前2700年頃から培われていたものと考えられている。そしてその著者こそが、古代エジプト随一の賢人と称されたときの宰相であり史上初のピラミッドを建設した“イムホテプ”である…。

※詳しくは「人と薬の羅針盤 黎明編」本文にて



単行本
「人と薬の羅針盤 黎明編」
編著：ネオフィスト研究所 吉岡ゆうこ
定価：2,800円（税抜き）
B5横判／オールカラー223ページ／じほう発行
※お求めはお近くの書店やウェブで

ApoBitte! Vol. 2 2016

CONTENTS

- 04 【報告】
発信! 発進! コミュニティファーマシーキックオフミーティング
第1回コミュニティファーマシーワークショップ
- 06 <基調講演>
人と人をつなぐコミュニティデザイン
～株式会社 studio-L 代表 山崎亮
- 08 ワークショップ
薬局発 コミュニティデザインを考えよう!
- 10 発表・共有
薬局に必要な取り組みとは? 4時間のテーブルワークの成果
- 12 ランチタイム(試食会)
- 13 人と人をつなげるコミュニティをデザインする
- 14 JACP 2016年今後の予定
JACP入会のご案内

<広告掲載企業>

- 02 ネオフィスト研究所
- 12 東武トップツアーズ
- 15 大塚食品
- 16 田辺三菱製薬



今号の表紙写真

ドイツ・ハイデルベルクの街並み。街かどの目立つ所にあるのは、古く格調ある建物に馴染んだアポテーク(薬局)。

ApoBitte! vol.2

発行日：2016年4月1日

価 格：定価500円＋税

発行所：一般社団法人

日本コミュニティファーマシー協会

〒160-0004 東京都新宿区四谷1-3

望月ビル3F

TEL03-3354-0288 FAX 03-5759-1724

発行人・編集長：吉岡ゆうこ

制作・編集：株式会社エニクリイティブ

デザイン：ヨシオカデザインルーム

印刷・製本：三昇堂印刷株式会社



ハイデルベルク城をネッカー川の対岸から眺めた風景(ドイツ・ハイデルベルク)

報告!

発信!発進! コミュニティファーマシー キックオフミーティング

第1回 コミュニティファーマシーワークショップ

コミュニティファーマシーへの発進ギアを入れている薬剤師
コミュニティへの発信を模索している薬剤師、大集合!!

Community Pharmacy Workshop

吉岡ゆうこ 理事長



山崎亮 氏



2016年2月11日(木/祝)・東京 スクワール麹町

コミュニティファーマシーって何? 地域包括ケアシステムに参画と言っても、
それぞれの地域で誰とどのようにつながっていけばいいの?

国は「門前」から「かかりつけ」、そして「地域」へとやっているが、どう変わっていったらいいの?

など、みんなでワイワイガヤガヤ議論しました。

ファシリテーターは、NHK「NEWS WEB」でナビゲーターをつとめていた
コミュニティデザイナーの山崎亮 氏。

はじめに

「発信!発進!コミュニティファーマシーキックオフミーティング」と題した、第1回コミュニティファーマシーワークショップには、全国から70名の方がご参加くださり、本当に嬉しく思っています。

コミュニティファーマシー協会(JACP)は、2013年11月に設立、薬剤師の職能と薬局の機能に与えられた使命の下に、健全な地域社会づくりに貢献する「コミュニティファーマシー」を創造し、地域の人々が心身ともに健康となる拠点となることを目指しています。

地域包括ケアシステムを構築するため、2016年度の調剤報酬改定では、「かかりつけ薬剤師」の役割と「かかりつけ薬剤師」が役割を発揮できる薬局の体制・機能、つまり「かかりつけ薬剤師・薬局」の姿が示されました。また、4月1日から健康サポート薬局制度が始まります。健康サポート薬局には、「かかりつけ薬剤師・薬局機能」と「健康サポート機能」の両方が求められます。「行きつけ薬局」の「かかりつけ薬剤師」については、当協会ではずいぶん前から提唱してきましたが、ようやく地域の人々の健康維持・増進をサポートする薬局の必要性がはっきりと示されたと言えます。

当協会では2015年より、地域包括ケア5領域(医療、介護、予防・健康、生活、暮らし)への参画に必要な知識、技術、態度、コンピテンシーの涵養を目的としたCP研究会を開催しています。

涵養の中でも最も重要と位置づけているのがコンピテンシー(行動変容)です。地域包括ケアシステムに参加して「かかりつけ薬剤師・薬局」となり、さらに「健康サポート薬局」として病気予防と健康サポートに貢献を。と、かけ声は勇ましくも、薬剤師、薬局独自でできるものではなく、そこには地域住民がいなくては成り立ちません。地域住民とどのようにつながったらいいのか、その手法を求めて、今回コミュニティ

デザイナーの山崎亮氏にワークショップの依頼をしました。コミュニティファーマシー協会設立時から、コミュニティを巻き込み、そして巻き込まれながら様々なプロジェクトを展開している山崎氏に講演をお願いしたいと切に思っていました。その願いがやっとかなったワークショップでした。

ワークショップ参加に際し課題が2つありました。普段地域で過ごす服装で参加することと地域のご当地銘菓をもってこること。山崎氏が「敷居をさげる」という言葉を使っているのですが、山崎氏の講演時の服装も「敷居をさげる」ものであり、参加者の服装もワークショップ全体を和ませる意味がありました。そして、ワークショップ開催前に、2015年のFIP(世界薬学・薬剤師連合)デュッセルドルフで、世界の薬剤師とともに宣誓してきたFIP作成「薬剤師の誓」の日本語版を参加者とともに宣誓しました。敷居はさげても薬剤師はプロフェッショナルでなければなりません。気を引き締めつつも心は和ませ、手と頭と言葉と空間を使いワークショップを進めていきました。

このアポビッテ2号は、そのワークショップの報告号です。今回のワークショップは「答え」ではありません。それぞれの地域、薬局に合った答えを見つける道しるべとなる方法が、コミュニティデザインの技能を学ぶということです。きっと参加者一人ひとりが地域と薬局に持ち帰り、仲間と共有して、翌日からの実践に少しずつ結びつけていることでしょう。その実践の成果は、7月に開催する第3回コミュニティファーマシーフォーラムで発表していただく予定となっています。今回のワークショップに「キックオフミーティング」とつけたのはこのワークショップが、今後ずっと続けていくべき学習のスタートだからです。山崎氏が再登場する、7月のコミュニティファーマシーフォーラムへのご参加もお待ちしております。

日本コミュニティファーマシー協会 理事長 吉岡ゆうこ





発信!発進!
コミュニティファーマシー
キックオフミーティング

基調講演

人と人をつなぐコミュニティデザイン

～薬局が地域の拠点となるために、地域との関係性をどうつくるのか～

株式会社 studio-L 代表 山崎亮

山崎 亮 (やまざき りょう)

1973年愛知県生まれ。大阪府立大学農学部農業工学科在学中にメルボルン工科大学に留学。卒業後、設計事務所に入社。在籍中に公園運営のプログラムづくりに携わる。2005年「studio-L」を設立。人と人のつながりによって地域住民自身の力によって課題を解決するコミュニティデザインを軸としたプロジェクトを全国各地で展開している。東北芸術工科大学教授(コミュニティデザイン学科長)、慶應義塾大学特別招聘教授。

あらゆる分野で「参加型」が重要になる時代

ご紹介いただきました山崎です。どうぞよろしくお願いいたします。

今、「参加」や「コミュニティ」が重要になる時代です。歴史を振り返れば、江戸時代までは、「道普請」で地域の道路をつくったり、組単位で年貢を納めるために協力をしたり、自分の町のことは自分たちでやっていました。しかし、明治には「年貢」から個人にかかる「税金」に変わり、太平洋戦争後には町内会や部落会は、力を弱めていきました。しかし、今またこのコミュニティのつながりや地域づくりへの参加が注目されてきています。

たとえば、都市におけるまちづくり。以前は専門家が都市計画といって上から下に与えていたものが、「まちづくり」と言われていましたが、徐々に地域の人たちが参加型でつくっていくようになりました。芸術分野でも社会に関わるアートや参加型のアートが増えていきました。芸能の分野では、AKB48に代表されるような、ファンが参加してアーティストを育てていくものが

出てきました。参加型だと、コミットメントやエンゲージメントが強くなる。このことが重要だとわかってきたのです。

福祉の歴史を見ると、家族に負担のかかった家庭での介護をやめて、福祉で引き取りましよう、人里離れたところに大規模な介護施設・福祉施設をつくり、その施設に人々を収容していったら、地域から高齢者も障害者もいなくなりました。これが正しいコミュニティなのかと議論が起きて、現在は、もう一度地域に戻しましょう、という流れです。しかし、ただ家に戻したのでは過去に戻るだけです。そのため配食や見守りのしくみ等を含め、地域で包括したケアが必要だと厚生労働省は提唱しています。

地域包括ケアにおいては、医療、福祉、住まい等の専門家同士が結束するだけでは足りないんですね。コミュニティの人たちが参加して、ふだんから地域の高齢者の見守りをするのが大事になってくる。では、薬局はどうでしょう。薬局は参加型コミュニティと組み合わせるっていいのか。かかりつけ薬局における住民参加はどうなるのか。こうしたことを考えてみたいというのが、協会の皆さんが僕たちを呼んでくれた理由だと思います。

地域の中に入っていく方法とは

僕たちの関わったプロジェクトから「はじまりの美術館」を紹介したいと思います。福島県猪苗代町の事例です。美術館が薬局に近いのかもしれませんが。両方とも一般の人には敷居が高い。ドラッグストアならまだ入れますが、薬局になると「何もなく入ってはダメなのか」という感じがします。

はじまりの美術館は、アール・ブリュットの美術館です。正規の芸術教育を受けてはいないけれど、芸術的な作品をつくらせている人たちの作品を集めた美術館で、知的障害を持った方にも多く巨匠がいます。これまでのアール・ブリュット美術館は地域の人たちがほとんど来ないものだったそうです。新しくつくるこの美術館はそうではない、地域の人たちが毎日のように入り浸るような美術館にしたいと、依頼がきました。

しかしここは会津の土地柄、はじめは人々が本当に「とっつきにくい」のです。ワークショップなどを行っても、人が集まらないし、人が来てもあまり意見が出てこないことが予想されました。まずは何とかして地域に入らないといけませんでした。そこで、4人の若いスタッフを美術館の前の空き家に共同生活させました。この空き家の前は生活道路で、おじいちゃん・おばあちゃんがよく通ります。外にテーブルを出して料理をつくるようにしていると、「おはようございます、こんにちは」と通る人たちに挨拶ができます。若者が下手な料理をしていると気になるのでしょう。1週間くらい経ったころ、おばあちゃんがやってきて野菜をくれました。さらに1ヶ月くらい経つと、調理した物のおすそ分けが届きます。だいたい地域の人たちと仲よくなれましたが、ここで焦ってワークショップをはじめではダメです。さらに1ヶ月くらい、いろいろな話をして、困りごとをサポートしていると、洋服までもらえるようになります。ここくらいまでくると、地域の人たちに溶け込んだことになり

ます。「いつも誰かがいる場所だな」と認識され地域の拠点となり、ようやく「ワークショップを開きましょう」と言えるのです。

地域の拠点となる薬局を目指すときに、薬局の人たちが何をしないといけないのか。そのヒントがこの事例にあるのではないのでしょうか。「私たちは薬剤師」という態度ではなく、どのように地域の人と友達になるのか、とても大事なことです。もちろん専門性を捨てる必要はありません。しかし、皆さんが身に纏っているプロフィールを消していくことは大切です。たとえば、僕が「デザイナー」だと思われた瞬間に見せられなくなるものって皆さんの中にいっぱいあると思います。同じように、皆さんが薬剤師だと思った瞬間に僕が言えなくなることがいっぱいあるのです。そうしたことを消していって地域の人とまず友達になって、本音で話せるようになることが、極論ではありますが、地域包括ケアの基本だと思います。人と人のつながりを地域の中で顕在化させ、存在感を発揮していくやり方は「外で料理をつくる」以外でもたくさんあると思います。

このプロジェクトでは、ワークショップを重ね、地域住民自身が意見を出し合って、美術館のあらましを決めていきました。結果、はじまりの美術館は、地域の人たちが「自分たちの美術館」と認識し、地域の人が毎日やってくる場所となりました。薬局に置き換えれば、地域の人たちが来てくれる薬局になるために、日々のマネジメントの中でどう地域と関わるのか、新しい店舗をオープンさせるときに地域との関係をどうつくっていくのか、この辺りが大事だと思います。

最初に言ったとおり、時代はどの分野もすべて参加型、またはコミュニティと協働する時代になっています。その時代に薬局はどうやって地域と関係性を結ぶのか。僕には答えがありません。皆さんにここで話し合っていていただいて、アイデアを披露していただければと思います。どうもありがとうございました。



軽妙な語り口で参加者に語りかける山崎氏



山崎氏の一言一言を熱心にメモをとる参加者



お願いした「普段着」での参加者たちで会場は明るい雰囲気

発信!発進!
コミュニティファーマシー
キックオフミーティング

ワークショップ

薬局発 コミュニティデザインを考えよう!

ステップ

WORK 1 課題発見!

薬局の
カルテづくり
を作成しよう

WORK 2 思考せよ!

愛される薬局に
なるために必要な
取り組みを考えよう

WORK 3 構築する!

私たちの考える
コミュニティファーマシー
を描こう

発表・共有

薬局に必要な
取り組みとは?
4時間のテーブル
ワークの成果

午後からは、参加者がスモールグループに分かれてテーブルワークの実践を行いました。まずは周りの人々と互いに自己紹介をしながら、共にテーブルワークを行うチーム分けをしていきます。各自が持っている自己紹介カードには、興味のある分野が書かれています。会場を歩き回って、同じ興味を持つ者同士を見つけてチームを形成。最終的に、「食」で集まったチームが4つ、「未病」が3チーム、「運動」が2チーム、「妊娠・子育て」「美容」「介護」が1チームずつの、合わせて12チームとなりました。テーブルワークの始めにはstudio-Lの洪 華奈氏より、意見交換の仕方、付箋の使い方や模造紙の使い方など事前レクチャーを受けました。



studio-Lの
洪 華奈氏



自己紹介しながらテーブルを回る



自己紹介カード

WORK 1 課題発見!

薬局の
カルテづくりを
作成しよう



各自考えて、今の薬局の状態について、青の付箋に記入していきます。たとえば、利用者層、弱点、強み、その他薬局の現状について思うところ、などなど。そして、模造紙の左側「今の薬局の状態」の枠に貼っていきます。話し合いながら、近い意見、似た意見はまとめて、タイトルをつけて整理します。

青の付箋で現在の状態を整理したら、訪れてほしい人、果たすべき役割、今後のあるべき姿などを、右側の「目指したい薬局とは」の枠にピンクの付箋で貼り付けて、整理します。



青い付箋を配置しながら自分の意見を発信



ピンクの付箋を貼りながら考えをまとめていく

WORK 2 思考せよ!

愛される薬局に
なるために
必要な取り組みを
考えよう



WORK 1 で見えてきた「目指したい薬局の姿」。これを実現するためにどうしたらよいのか話し合っていきます。2つ目のWORKは、アイデアをどんどん出す「ブレインストーミング」形式。アイデアは「質より量」で、「本当にできるのかな?」「薬局としてはおかしいんじゃない?」そんなことは心配せずに、ちょっとした面白いと思うものは全て黄色の付箋に書き出します。他の人の意見は否定せず、肯定してから自分の意見をつけ加える「Yes, and」がルールです。



目指したい方向を皆で決めていく



黄色い付箋にはいくつもの可能性が含まれている

WORK 3 構築する!

私たちの考える
コミュニティ
ファーマシーを描こう



WORK 3 では、いよいよ理想のコミュニティファーマシーの模型をつくります。

WORK 1・2 で付箋を整理した模造紙から、これぞという意見を選び、それをどのように形にしていけるのか、studio-Lが用意した、部屋・空間の模型、人型の模型、家具・備品の模型などを組み合わせて立体的に表現していきます。

手を動かすことによって、次々にアイデアが浮かび、どんな人に来てもらい、どんな取り組みをどのように行うのか、コンセプトやテーマが明確になっていきます。



手を動かしながら目指す方向を見定めていく



立体模型を作りながら具現化していく

発信!発進!
コミュニティファーマシー
キックオフミーティング

発表・共有

薬局に必要な取り組みとは？ 4時間のテーブルワークの成果



チーム「おたがいさま」の紙模型



チーム「祭り」の紙模型



チーム「スポーツ吹き矢」紙模型



プロジェクターを使った最終発表の様子

WORK 1の「課題発見!」では、どのチームでも、「処方箋がないと入れない」「手ぶらで来られない」など、気楽に入れない場所であることが指摘されていました。現在の利用者像では、「高齢の人が多い」「地元の患者さんがほとんど」といった内容が多く見られました。「相談されない」「ゆっくり時間がとれない」「調剤業務が忙しい」など、患者さんとのコミュニケーション不足、その原因である人員不足や多忙さなども課題のようです。

それを受けて、「目指したい薬局とは」として、「処方せんがなくても入れる」「気軽に立ち寄れる場所」「人が集まれる場所」「薬剤師に声をかけやすい」といった内容が多く見られました。

WORK 2の「愛される薬局になるための必要な取り組みを考えよう」には、各チームで実に多種多様な意見が見られました。薬局でのイベント開催や、地域のイベントに参加すること、SNSの活用や、気軽に検査や健康チェックができる薬局にすること、カフェの併設や地域喫茶店とのコラボレーションなどなど。その他、笑顔を大事にする、入りやすいディスプレイを工夫するといったものもありました。

WORK 3では、各チームがWORK 1・2の結果を踏まえ、紙模型で理想の薬局づくりです。多くのチームで、調剤室と待合室だけではなく、各種教室を開く部屋、イベントスペース、測定室など、機能別に複数の部屋を持つ薬局が表現され、これからの薬局のあり方に想像が膨らむ結果となりました。この模型とそのコンセプトは、6つのチームに発表をしていただきました。

WORK 3でつくった薬局のコンセプトに合わせて、各チームがチーム名を決めました。12チームの名は以下の通りです。(カッコ内は、チーム分けに利用したメンバーの興味分野。◎は発表した6チーム)

- | | |
|---------------|-----------------|
| ◎おたがいさま(食) | ◎スポーツ吹き矢(運動) |
| ・よっといで(食) | ◎メディザップ(運動) |
| ・自由研究サポート(食) | 右ページで内容を紹介しています |
| ・祭り(食) | ◎カッコイイ薬剤師(美容) |
| ・Enjoy昼かつ(未病) | ◎smile!(妊娠・子育て) |
| ◎サロン(未病) | ・琳(介護) |
| ・愛される薬局(未病) | |

<参加者の声>

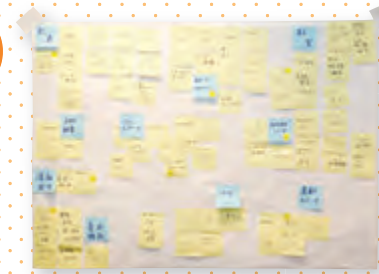
山崎先生の講演やグループワークを通して、仕事をきっかけに生まれる人とのつながり、「人儲け」を実体験しました。山崎先生が考えるコミュニティデザイナーとして、ものをつくるのをやめ、その地域の特性を生かし、人と人をつなげコミュニティをつくり、その力を持続させる。ここにお金以上の価値、「人儲け」が存在するのだとわかりました。人と人を結ぶツールとして、薬局がどこまで地域をデザインできるかわかりません。コミュニティファーマシーという形で地域をつなぐことが出来たら、最高の人生(幸せ)かも!! 可能性を感じ取りました。(厚川俊明)

発表

発表の中からチーム「メディザップ」を紹介します。トレーニングジムのCMにヒントを得て、コンセプトは「結果にコミットする薬局」です。

WORK
1

青い付箋で貼られた薬局の課題や特徴から、目指したい薬局のあり方をピンクの付箋で整理

WORK
2

黄色の付箋でどんどん出した意見。メンバーの間で「これは」と思う意見にはシールを貼っていった

WORK
3

体力づくりの部屋、地域の人が先生を務める教室スペースなどを描いた。チーム「メディザップ」制作の紙模型

チーム「メディザップ」が創った薬局は、その薬局に関わることによって、皆が健康になる、ハッピーになるなど、それぞれの目標の結果にコミットする薬局です。その内容は、ひとつは「毎日の体力づくり」。町の人たちが薬局に集まって体力づくりをします。たとえば、お腹周りマイナス2センチなど、各自の目標が達成できるように「結果にコミット」していきます。参加者がお互いに結果

を確認しながら継続に結びつけます。2つ目は「町の先生シリーズ」。フラダンス、お花など、地域の人たちの得意技を薬局で披露していただき、それに興味のある人が集まってくる、というものです。3つ目が「町の掲示板」。川柳、生け花などの作品展示をし、様々な人々が参加ができる町の人々が主役であるスペースをつくります。

チーム「メディザップ」からのコメント

チーム「メディザップ」は「運動」で集まったチーム。グループワークを通して皆で考えたのは、町の人みんなが主役になってハッピーで健康に”結果にコミット”できたら…町内対抗の運動会を開催したい。これがチームとしての最終目標でした。今回のワークショップで薬局が病気にならないと行かない敷居の高い場所ではなく、健康になるためにいかに気軽に立ち寄れる場所にできるか。接点のない住民が薬局を通してつながる手段は何なのか。普段の薬局業務ではあまり意識しなかったけど必要なものについて、アイデアを出し合い楽しみながら考えさせられました。薬局発信で住民みんなが心も体も健やかに、いつかこのような夢や理想が形になるように、私たち自身が「結果にコミット」しなければと気持ちが高まりました。(佐々木久美)

山崎氏より 講評

皆で取り組むからこそ長続きするというのは重要なところですね。「このチームで、地域の皆と一緒にやるからやり続けよう」と思えるようなつながりを、薬局の中にどのようにつくっていくのが重要だと思います。計測数値を競い合うやり方もよいですが、「あの人が来てるから、私も」という関係性・絆が大事になるでしょう。

発信!発進!
コミュニティファーマシー
キックオフミーティング

ランチタイム
(試食会)

ランチタイムは薬局商材のミニ見本市

今回のワークショップのランチは大塚食品のマイサイズと伊那食品のかんてんスープの試食会を兼ねました。大塚食品からマイサイズのカレー類4種類(欧風カレー、バターチキン、グリーンカレー、ハヤシ)、丼もの3種類(中華丼、麻婆丼、親子丼)、スパゲッティ3種類(ミートソース、カルボナーラ、チーズクリーム)の計10種類とマンナンごはん、伊那食品から寒天と豆のスープと寒天野菜スープトマト味の2種類を提供いただきました。参加者はビュッフェスタイルで思い思いにパスタ、カレーなどプレートにとり、ハードなテーブルワークを前にパワーを充填しました。

「マイサイズ」は100kcal以下、塩分2.0g以下に抑えたヘルシーなレトルト食品で、そのままレンジで温めるだけの手軽さも

喜ばれています。伊那食品の寒天が入ったスープは繊維質も取れる低カロリー食です。試食の感想として、「塩分カロリーが低いのに、しっかりした味で食べごたえもあった」「お皿にあけずにレンジで温められるのがよい」「サービス付き高齢者住宅などで、火を使えない、でも自分でやりたいという方にお勧めできる」などいただきました。マンナンごはんは普通のごはん変わらないというご意見がほとんどでした。ちなみにマイサイズの「おいしい」投票ベスト3は欧風カレー、バターチキン、ハヤシでした。これから健康サポート薬局が、地域包括ケア5領域に参画するには、食に対する提案も必要となります。これからも予防・健康、重症化防止、病時に関する食について、いろいろと提案していきます。



大塚食品の
マイサイズシリーズ



ビュッフェ形式
のランチ



基本のランチセット



伊那食品の
かんてんぱぱ
シリーズ

“Warm Heart”



ありがとうの連鎖を

JACPのドイツ薬学視察旅行は
私も東武トップツアーズが企画・実施しています。
当社は、これからもお客様に最もマッチした
「海外視察旅行」「国内視察旅行」を
提案・創出してまいります。

東武トップツアーズ株式会社
東京法人東事業部
〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町2-10-5 住友生命茅場町ビル2F
TEL:03-6667-0591 FAX:03-6667-0565 担当: 櫻井・鈴木
<http://www.tobutoptours.co.jp/>

人と人をつなげる コミュニティをデザインする

第1回コミュニティファーマシーワークショップ講師

第3回コミュニティファーマシーフォーラム講師

「株式会社 studio-L」代表 山崎亮氏

コミュニティデザイン。聞き慣れない言葉ですが、山崎氏は「人と人をつなげる仕事」と説明します。地域おこし、まちづくりというと、人が集まる施設を建設したり、特産品や地域ブランドを開発したりというイメージがありますが、山崎氏は、物をつくるのではなく、その地域の人と人をつなげ、新しいコミュニティをつくり出したり、すでにあるコミュニティを活性化させるという手法をとります。

まちづくりのワークショップ、住民参加型の総合計画づくり、建築やランドスケープのデザイン、市民参加型のパークマネジメントなど、山崎氏が代表を務める「studio-L」が手がけてきた仕事では、いずれも地域の人々が自主的に参画し、自分たち自身で地域や施設のあり方を決定しながら、プロジェクトが進んでいきます。その結果、プロジェクト終了後も住民自身が主体的に地域運営を継続し、ワークショップなどで身につけた技術や方法が、ずっと活用されていくそうです。

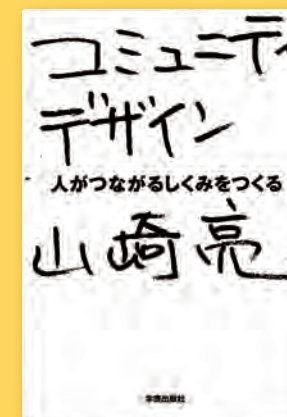
著作も数多く、実際に山崎氏が手がけたプロジェクトのあらましや、地域コミュニティのつくり方など、刺激的な取り組みや考え方に出会えます。コミュニティデザインに興味の湧いた方は、ぜひ読んでみてください。

また、山崎氏には7月に開催される第3回コミュニティファーマシーフォーラムでも講演していただきます。お楽しみに。

山崎亮氏の著書と関連本



コミュニティデザインの時代
～自分たちで「まち」をつくる
山崎亮 著 (中公新書)



コミュニティデザイン
～人がつながるしくみをつくる
山崎亮 著 (学芸出版社)



まちの幸福論
～コミュニティデザインから考える
山崎亮 著 (NHK出版)



コミュニティデザイナー山崎亮とゆく
コミュニティデザインの現場
渡辺直子 著 (織研新聞社)



第3回 コミュニティファーマシーフォーラム 発信! 発進! コミュニティファーマシー

JACPの第3回コミュニティファーマシーフォーラム。今年
はコミュニティファーマシーとして発信、発進している人
大集合です。コミュニティデザイナーの山崎亮氏に第1回
CPワークショップに続き再登壇していただきます。
コミュニティファーマシーキックオフミーティングを受け
て「のろしをあげよう」プロジェクトを展開していきます。
会員薬局による「地域での発信! 発進!」の口頭発表とポ
スター発表を予定しています。



主催：一般社団法人日本コミュニティファーマシー協会

- 定員：200名(定員になりしだい締め切らせていただきます)
- シンポジウム参加費：JACP会員 1万円、非会員 2万円
JACP学生会員 2,000円、薬学生 4,000円
- 情報交換会参加費：5,000円 ●申込み締切：2016年7月15日(金)

2016年 **7月24日** 10:00 ~ 18:00
秋葉原コンベンションホール

〒101-0021 東京都千代田区外神田1-18-13 秋葉原ダイビル2F
TEL:03-5297-0230 FAX:03-5297-5955

◆JR(山手・京浜東北・総武)秋葉原駅(電気街口)徒歩約1分 ◆東京メトロ日比谷線 秋葉原駅(3番出口)徒歩約4分
◆東京メトロ銀座線 末広町駅(1番出口)徒歩約3分 ◆つくばエクスプレス 秋葉原駅(A1出口)徒歩約3分

JACP 入会のご案内



JACP会員向け機関誌
「ApoBitte!」を通し
て、コミュニティファ
ーマシーとしての健全経
営を目的とした店舗
づくり、販売促進、情
報発信等に関する支
援を行います。

* 入会申込みは、ホームページよりお願い致します。
<http://www.ja-cp.org>

薬局は、地域の人々が心身ともに健康で「暮らし甲斐」ある地域社
会創造の拠点となり、地域の人々にとっての拠り所となる「行きつけ
薬局」でなければなりません。そのような役割を果たす薬局を「コ
ミュニティファーマシー」とし、一般社団法人日本コミュニティファ
ーマシー協会は、薬局が社会的役割と責任を果たすために、人々の
生活圏を舞台とした健全な地域社会づくりに貢献するコミュニティ
ファーマシーを創造することを目的に2013年に発足しました。

<入会金および年会費>

正会員	入会金 5,000円	年会費 5,000円
薬局会員	入会金 5,000円	年会費 1店舗当たり10,000円
学生会員	入会金 0円	年会費 1,000円
賛助会員	入会金 0円	年会費 1口 50,000円×2口以上
名誉会員	入会金 0円	年会費 0円

大塚食品

調剤薬局様専用

マイサイズから新シリーズ登場!

マイサイズ いいね! プラス



「マイサイズ いいね! プラス」は、カロリーが分かりやすく、
塩分・たんぱく質もおいしく手軽にコントロールできます!
カロリー・塩分・たんぱく質を気にされている方におすすめください!



マイサイズシリーズは

レンジだから簡単・便利・安全・安心。



マイサイズは100kcal カロリー計算簡単!



各種販促物を取り揃えています



大塚食品のホームページアドレス <http://www.otsukafoods.co.jp>